

心に残る文化財子ども塾 雲南市立阿用小学校

1. 活動の概要

5月31日（金）、雲南市大東町東阿用にある市立阿用小学校で、5・6年生15人を対象として『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、古代文化センター職員が、出雲国風土記に書かれた「阿用」の由来を説明しました。続いて、阿用小学校のまわりで遺跡が見つまっていることを、地図を使って紹介し、奈良時代の遺跡から見つかった土器を見たりさわったりしました。

次に、古代のお金について説明したあと、4班に分かれて和同開珎作りの体験をしました。火にかけた材料の金属が溶ける瞬間に歓声があがりました。そして鑄型をはずして枝銭が姿をあらわしたときに再び歓声があがりました。

最後に、大仏パネルを組み立てました。子どもたちは、手際良くパネルを並べていました。完成すると二階から全体像を眺めました。実物大の大仏の大きさを実感していました。そのあと、大仏パネルの上で思い思いのポーズをとって記念撮影をしました。古代の鑄造技術のすごさに親しんだ一日となりました。

2. 活動の様子



「なんで阿用というのかという...」



「この土器、お酒をいれていたのかな？」



「キレイなお金ができた」



「やった！完成したぞ！！」

3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

- 大仏パネルを完成させて楽しかった。
- 和同開珎の作り方が意外だった。
- 和同開珎の作り方がわかって良かったです。
- 阿用でも遺跡が発見されていることがわかった。
- もっと昔の生活に使われている物が見たい。

2) 担任の先生から

- ありがとうございました。とても良い時間でした。

3) 古代文化センターから

児童の皆さんは、小さな和同開珎も大きな大仏も、どちらも金属を溶かして鋳型に流し込んでつくります。和同開珎で基本的な作り方を学んだあと、大仏パネルの組み立てでその大きさを体感して、実物の大仏づくりのすごさを実感したようです。

また、阿用の地名の由来や、本物の土器にふれたことで、地元の歴史に興味をもってもらえたと思います。